

事業の背景・目的

フサヒゲルリカミキリ *Agapanthia japonica* は、カミキリムシ科フトカミキリ亜科に属する体長15mm程の甲虫である。かつては日本の複数の地域に生息していたが、2018年現在において、確実にその生息が認められる地域は、岡山県真庭市蒜山高原のみとなっており、環境省レッドリストでは絶滅危惧IA類、種の保存法による国内希少野生動植物に指定されている。当地においても個体数の減少傾向が著しく、絶滅が非常に危惧されるため早急な保全対策が必要である。本事業では、本種の絶滅を回避するため、生息域外での個体の飼育および採卵を実施し、さらに増やした幼虫を現地に戻すことにより蒜山高原における個体数の回復を目指す。



事業の内容

事業① 成虫の回収と採卵および 若齢幼虫飼育による個体数増殖

事業①では部分的な生息域外保全のための飼育を行う。

- ・ 6月下旬から7月にかけて発生した成虫雄6個体、雌6個体の合計6ペア程度を回収。
- ・ 山形と東京において飼育下で産卵させる。
- ・ 次世代を孵化させ若齢幼虫まで育てる。

事業② 個体の埋め戻しによる野外 個体群の補強

事業②では、事業①において繁殖した次世代を野生下に返し、野外個体群の補強を行う。

- ・ 週に1度、事業①において繁殖した若齢幼虫を蒜山高原に輸送する。
- ・ 食草であるユウスゲに埋め戻し、定着・増殖させる。

得られた成果

2016年に国内希少野生動植物種に指定されたフサヒゲルリカミキリは、現在確実に生息している地域が岡山県真庭市蒜山高原のみで絶滅が危惧され、近年は個体数の減少が著しく、野生状態の推移を見守るだけでは絶滅してしまう可能性があった。本事業では絶滅を回避するため6月下旬から7月にかけて発生した成虫雄6個体、雌10個体の合計16個体を野生個体を捕獲し、山形と東京において約40日間飼育し、産卵させ、530個体の幼虫を得た。その後、繁殖させた若齢幼虫500個体を現地に輸送し、ユウスゲの花茎に埋め戻すことで野外個体群の補強を行った。これにより個体数が劇的に回復することが見込まれるため、今後は、本種の安定した生息に重要である悪化している草原環境の復元を第一の目標としていく。また、成虫の生態の詳細な調査も同時に実施し、知見を集積していくことで、有効な保全対策へとつなげていく。